

算術科 (第五學年後期)

二、封^ゴ其^ノ他^タ度^ド

- (一) 重^{オモ}さの單^タ位^カ
- 一ポンド (封度) 一二〇^{モシ}匁^ノ九六。
 - 十六オンス (オンス)。
 - 一噸 一二四〇ポンド。

- (1) 一オンスは何匁なるか。
 $120.96 \div 16 =$

答 七匁五六

- (2) 一噸は何貫目なるか。
 $120.96 \times 2240 =$

答 二百七十貫九五

- (3) 石炭六千斤と三噸とは何れがどれ程重きか。(一噸は二百七十貫目として計算すべし。)

$0 \text{ 貫 } 16 \times 6000 = 960 \text{ 貫}$

$271 \text{ 貫 } \times 3 = 813 \text{ 貫}$

$960 \text{ 貫 } - 813 \text{ 貫 } = 147 \text{ 貫}$

答 8000斤の方147貫重し。

尋常 小 學 珠 算 科 表 解

第五學年 後 期

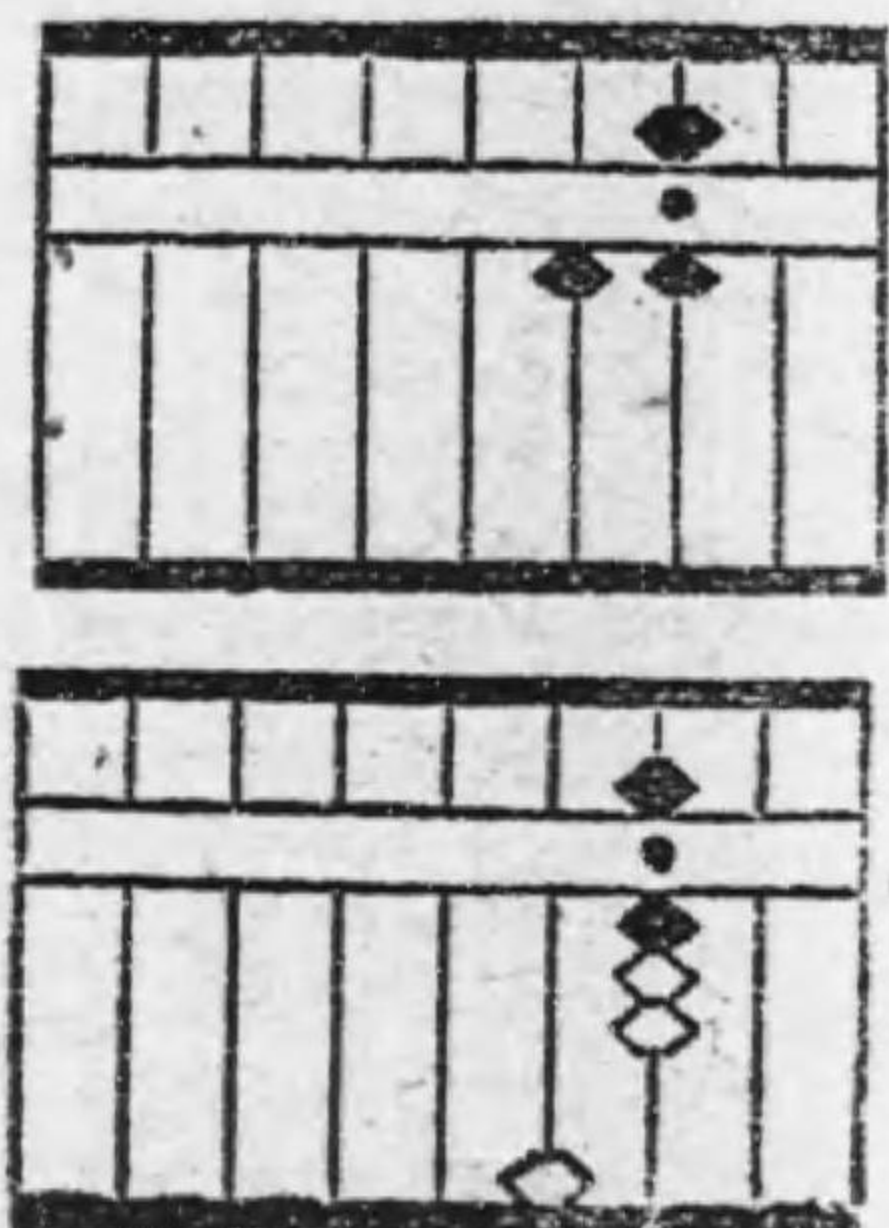
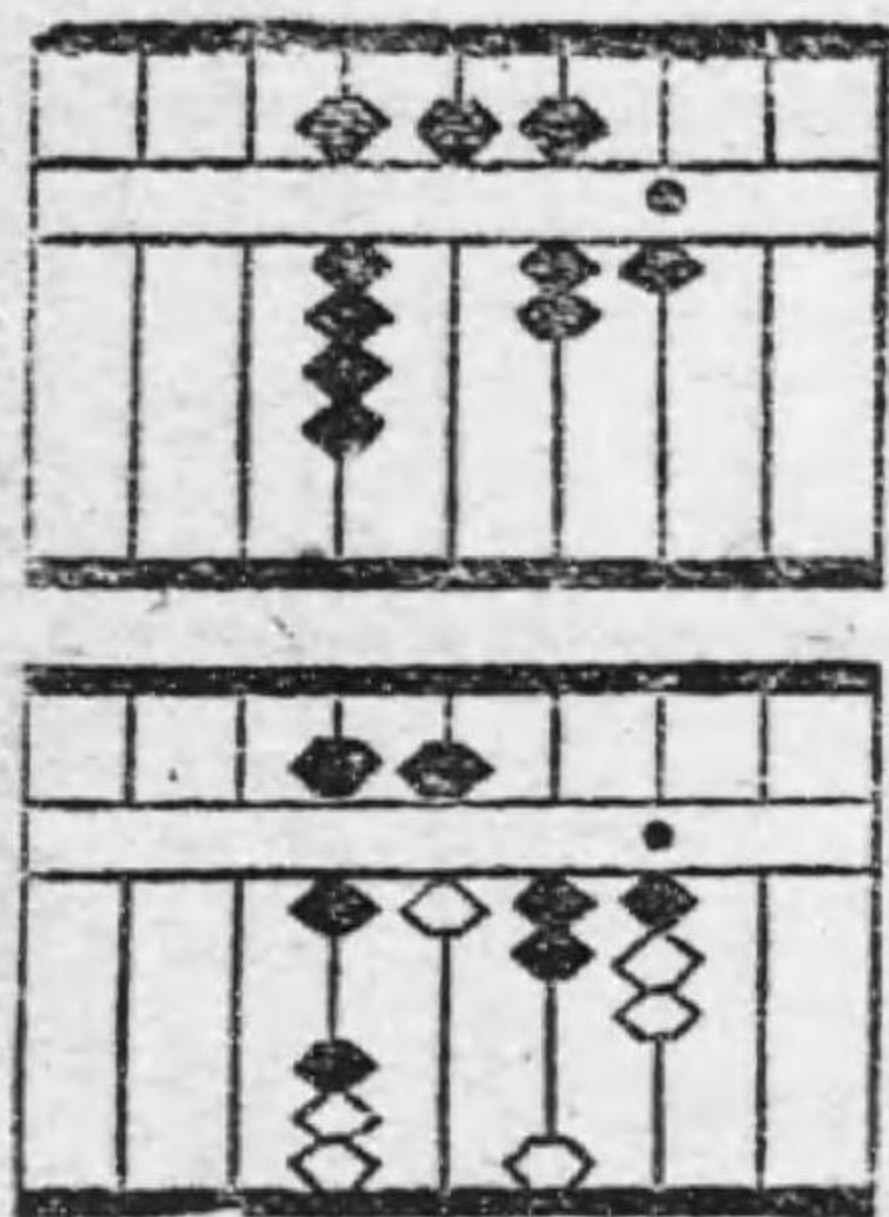
法 減

一、減法

(2) 9571 - 2948

(1) 16 - 8

珠算科 (第五學年後期)



8をひくは、2を加へて、10をひくにひとしきを以て、一の位に2を加へて、十の位の珠をはらふべし。
 千の位は、前に同じ。
 百の位は、9を減するは、1を加へて、10を減するにひとしきを以て、1を加へて、千の位より1をはらふ。
 十の位は、前と同じ。
 一の位は、8をひくは、2を加へて、10をひくにひとしき故、2を加へて、十の位より1をはらふ。

答 六千六百二十三

三

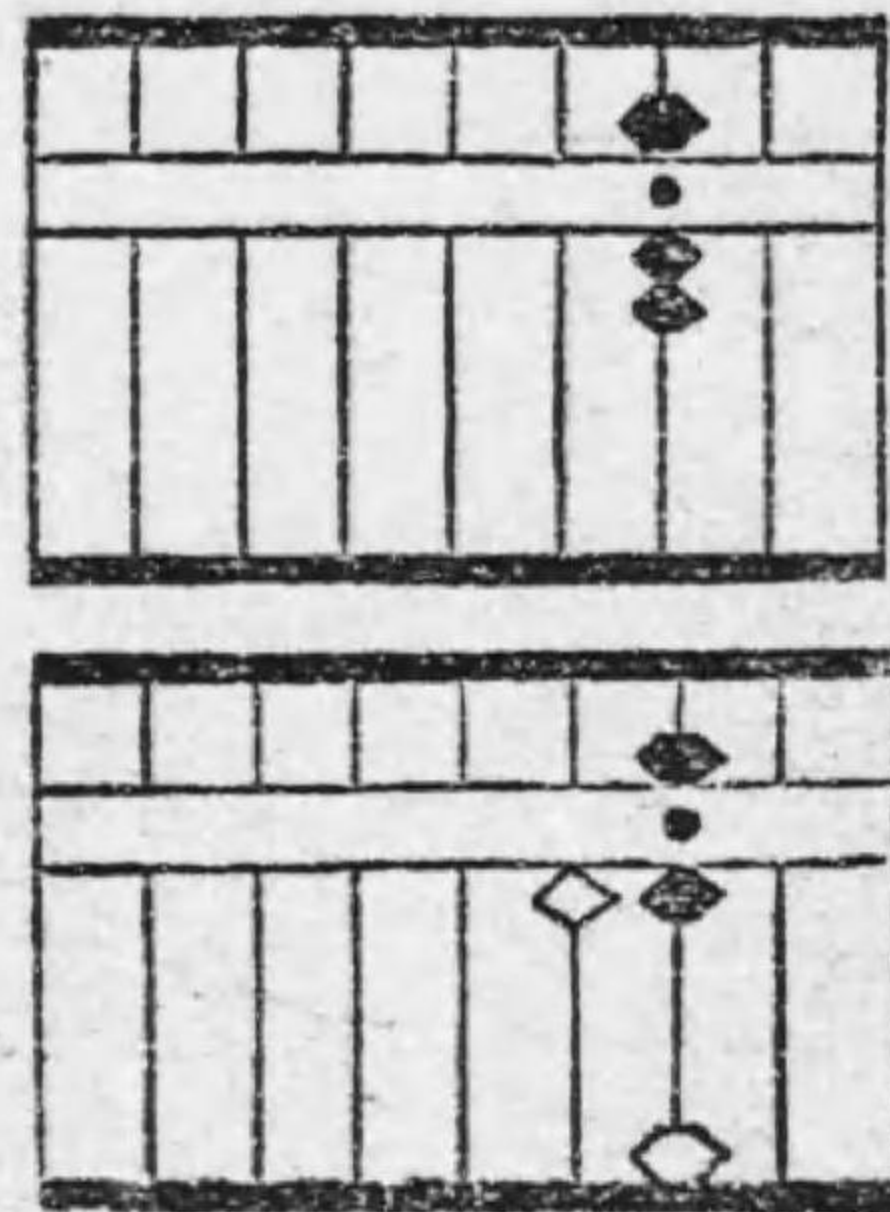
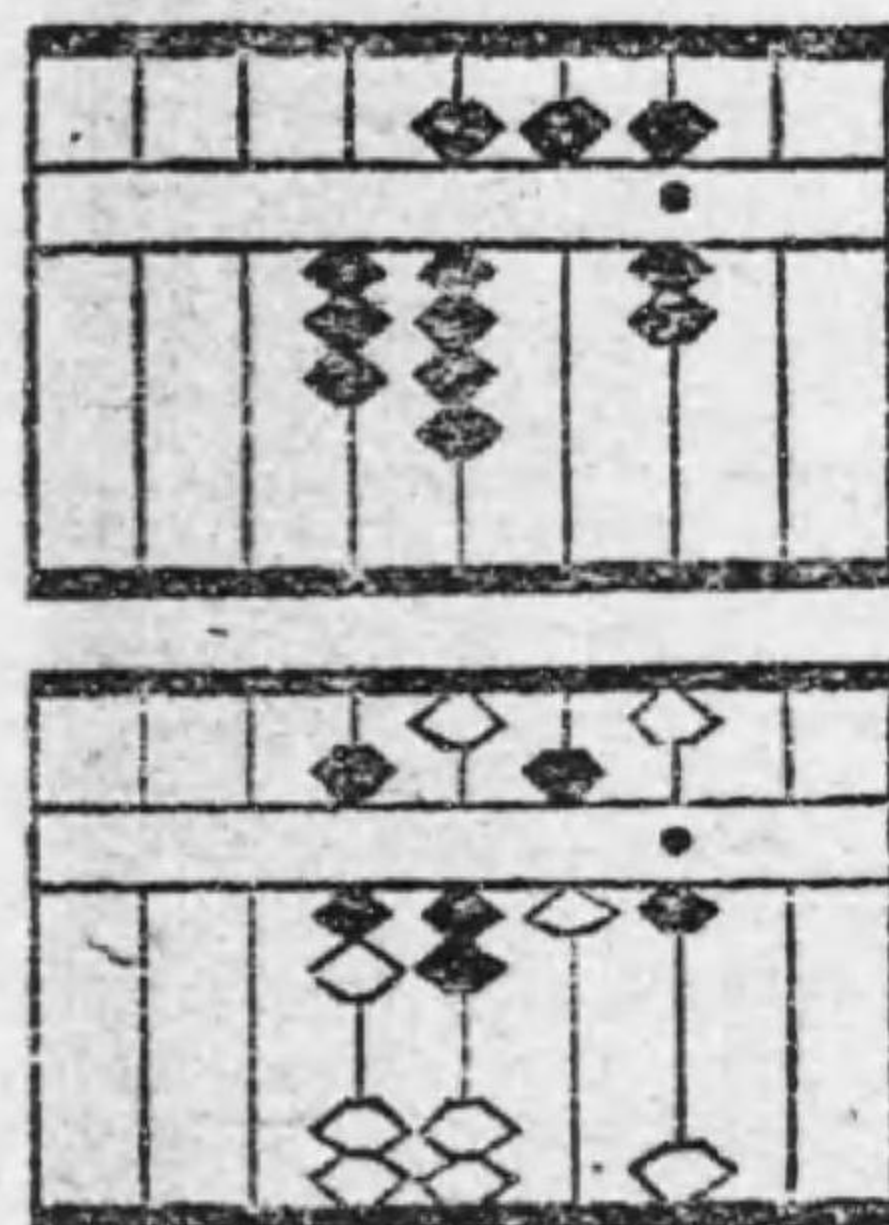
法 加

一、加法

(2) 3957 + 3304

(1) 7 + 9

珠算科 (第五學年後期)



9を加へるは、1をひきて10を加ふるにひとしきを以て、一の位より1をはらひ十の位に一を置くべし。
 百の位は、3を加ふるは7をひきて、10を加ふるにひとしき故、1をはらつて2とし、千の位に1を置く。
 一の位は、4を加ふるは、6をひきて、10を加ふるにひとしき故、6をはらつて1とし、十の位に1を置く。

答 十六

答 七千二百六十一

二

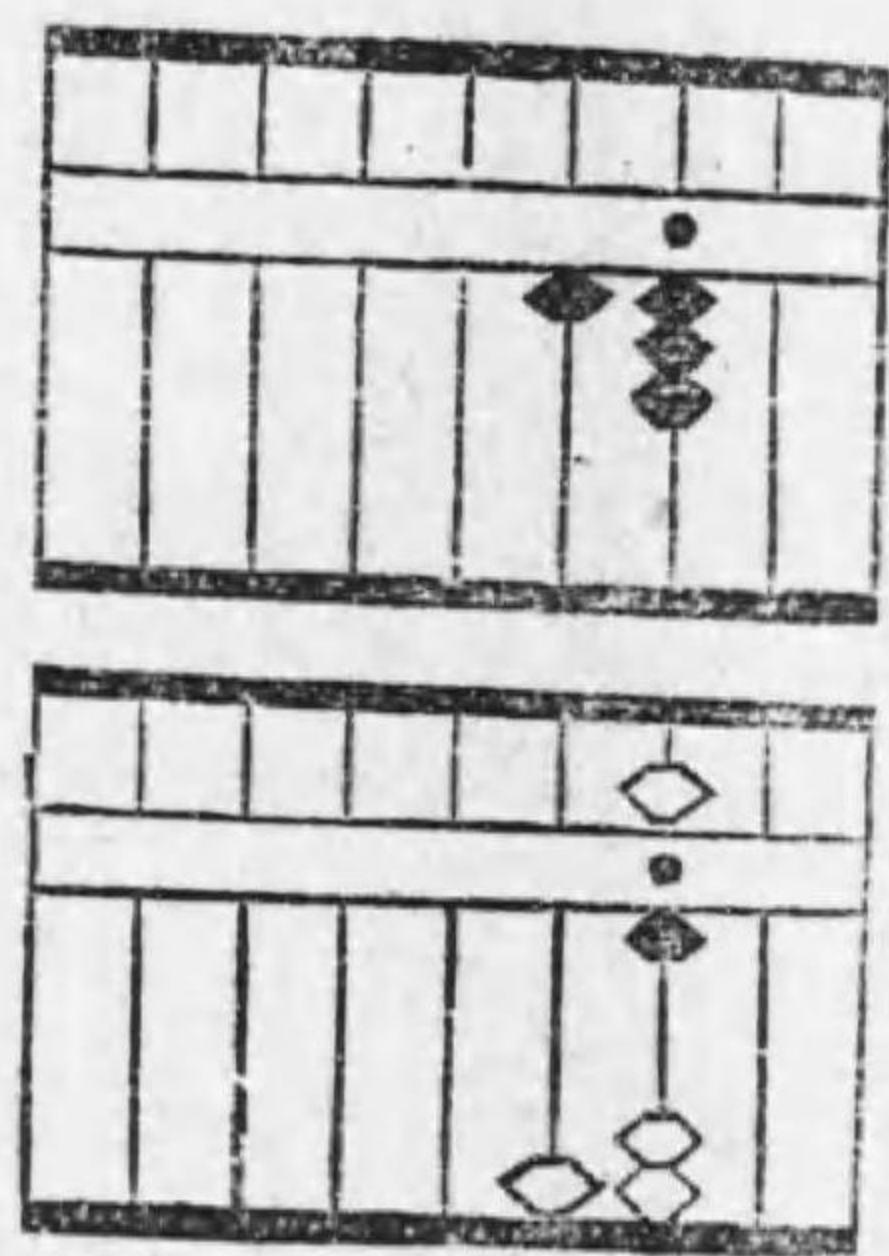
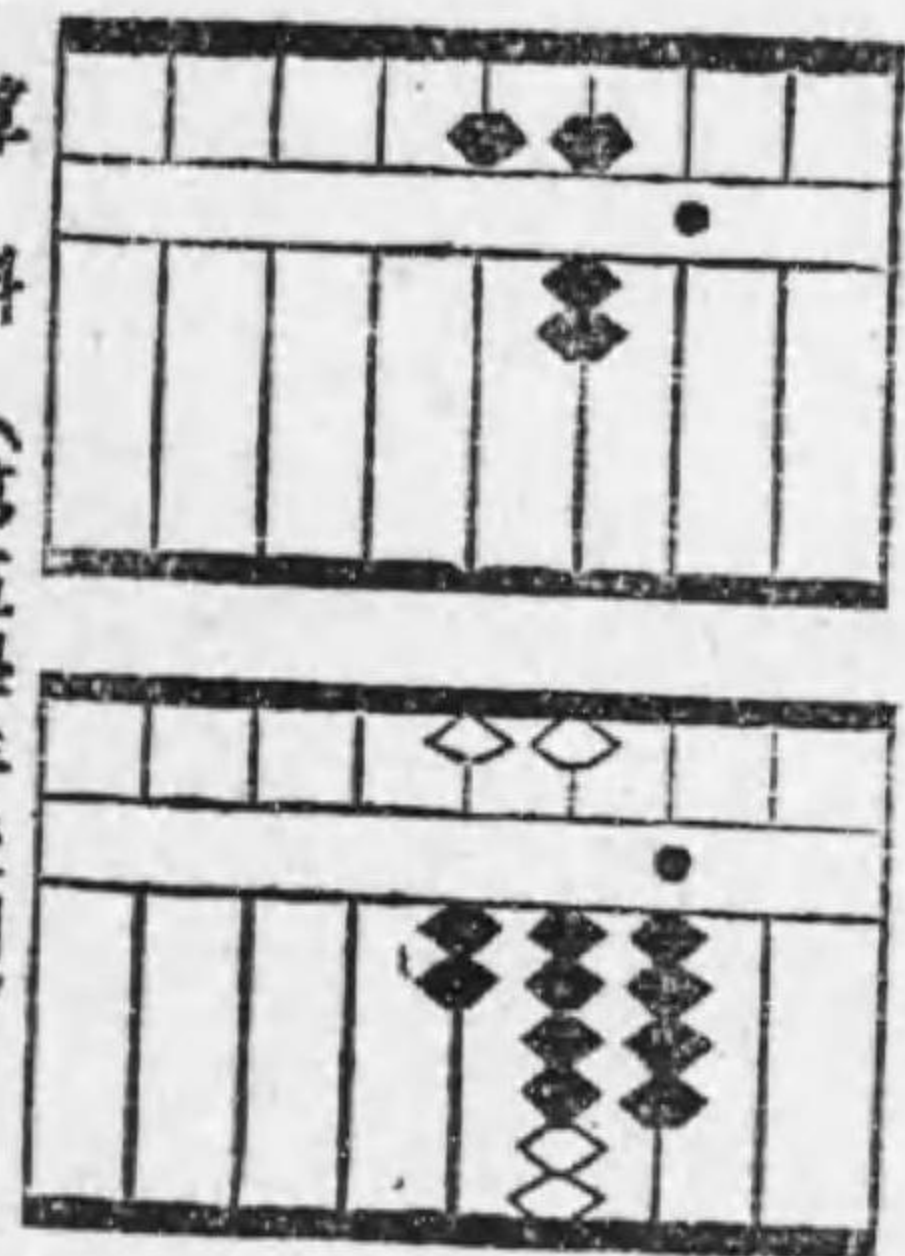
法 減

一、減法

(3) 570-326

(1) 13-7

珠算科 (第五學年後期)



一の位は、十の位より1を減じ、10ひく6は、のこり4として、直ちに4と置く。
 答 二百四十四

7をひくは、10を減じ、5を加へ、2を減するにひとし。上の圖を見てさとりべし。

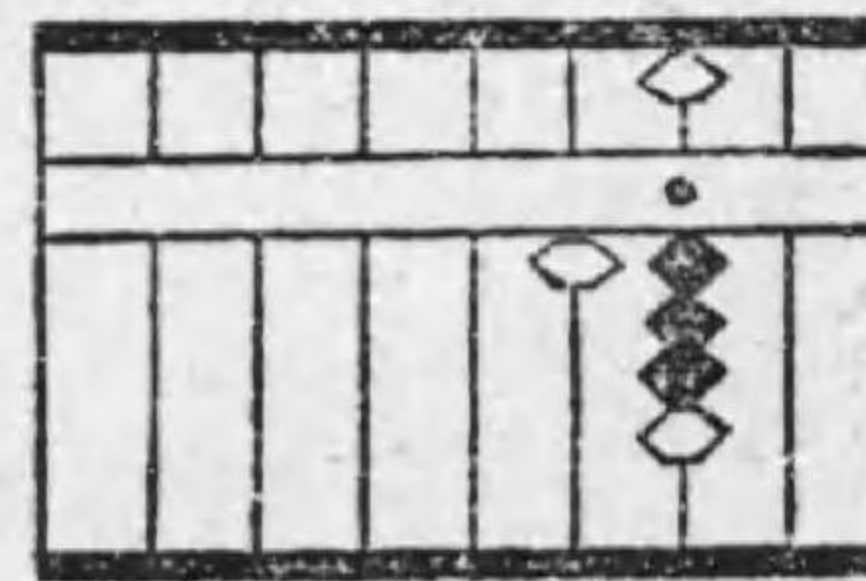
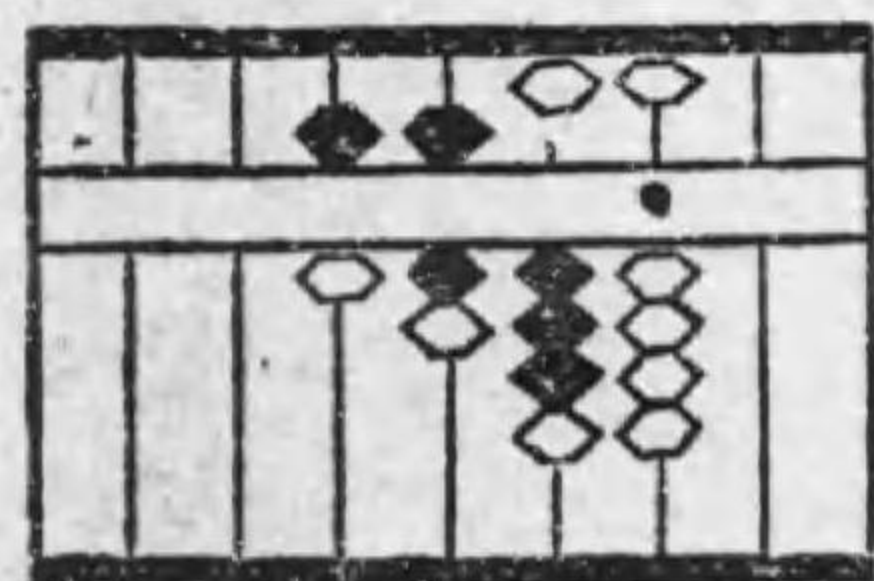
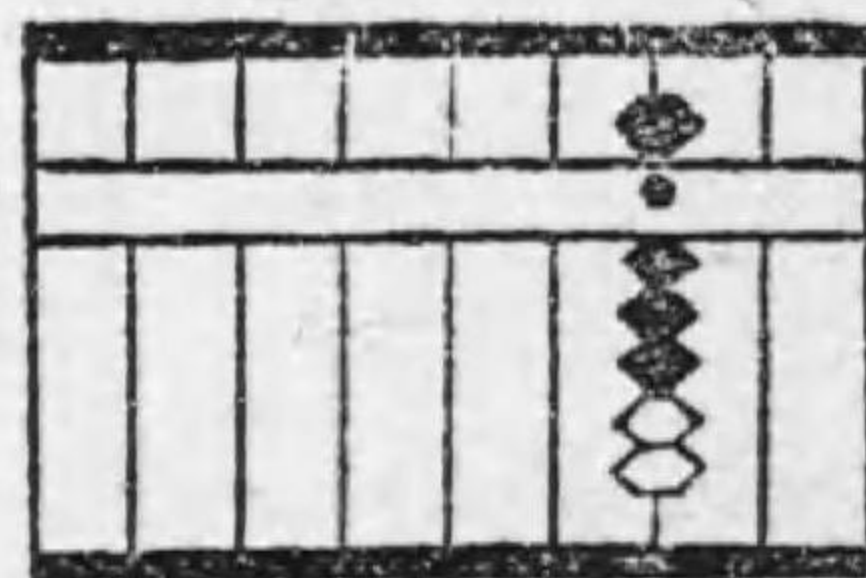
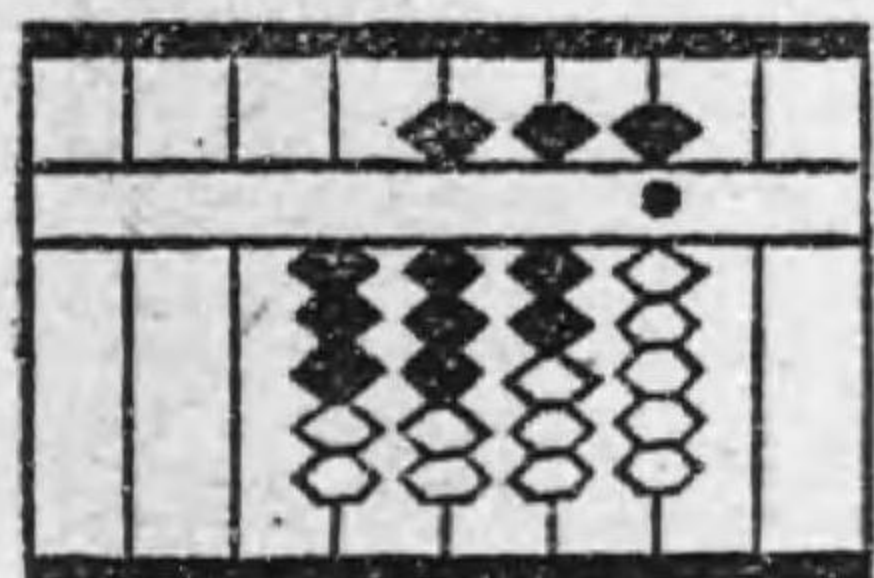
法 加

一、加法

(2) 3875+2869

(1) 8+6

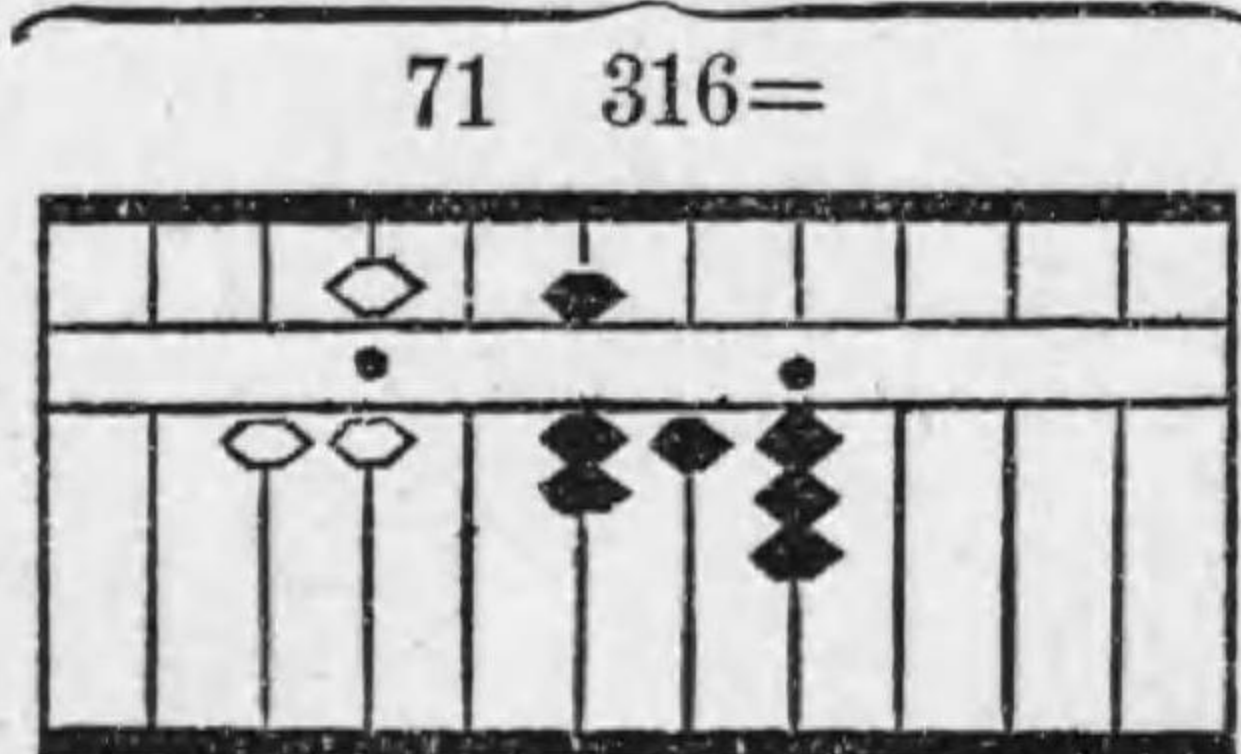
珠算科 (第五學年後期)



6を加ふるは、1を加へ(下圖のしろだま)5を減じ(下圖のしろだま)10を加ふる(下圖のしろだま)におなじ。
 千の位は、3加へる2は5となる故、直ちに3をはらつて、五珠を一箇おく。
 百の位は8を加ふれば、16となる故、直ちに2をはらつて、千の位に1を置く。
 十の位は(1)と同じ方による。枚の位は9を加ふるは、4を加へ、5を減じ、10を加ふるにひとしき故、この如くにす。
 答 六千七百四十四枚

一のそ法乗

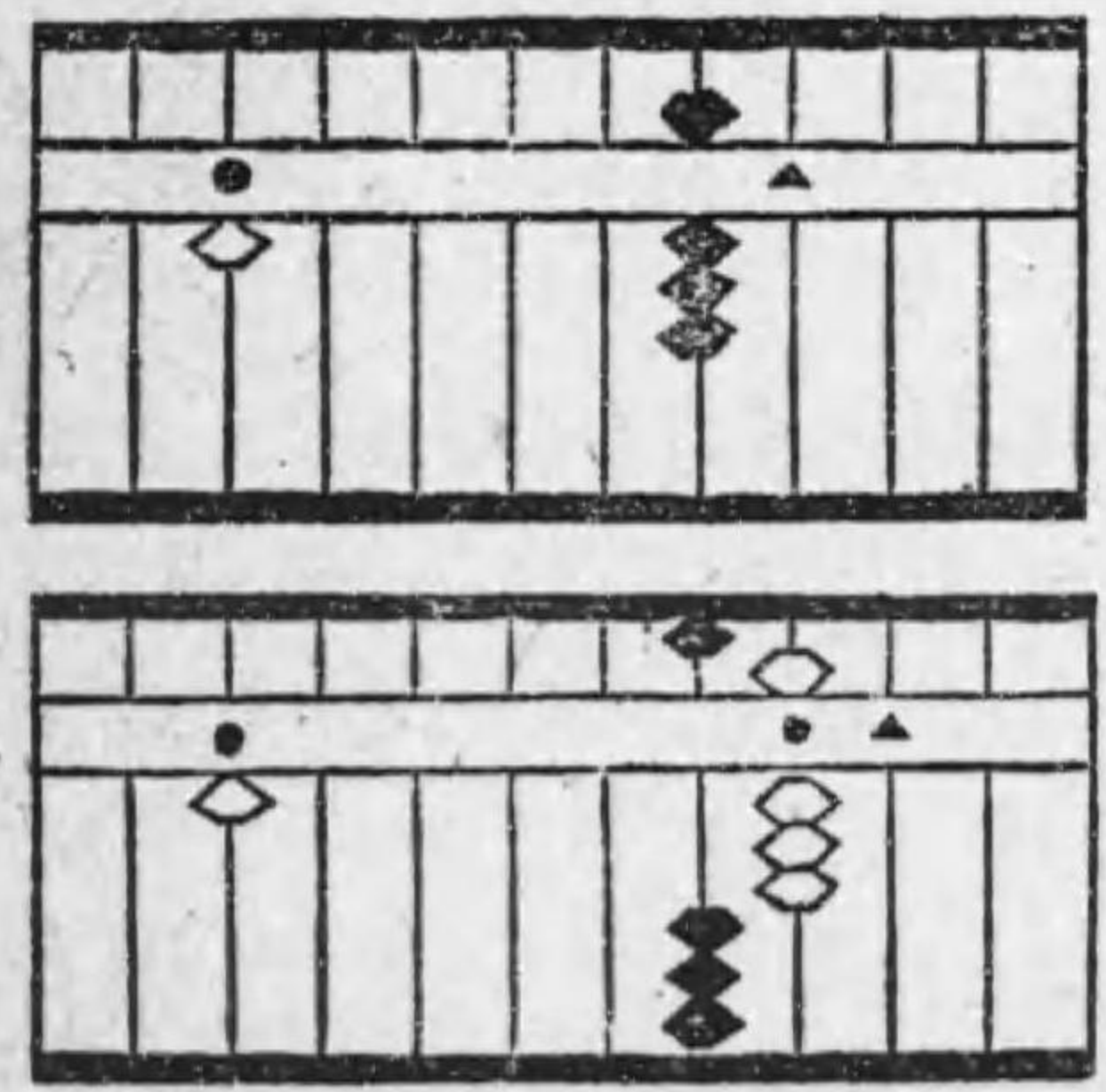
一、被乗数と乗数の置き方



珠算科 (第五學年後期)

二、整数にかくる場合

(1) 80 1 =



乗数を算盤の左の端(しろだま)に置き、被乗数は、算盤のまんなか(くろだま)に置くこと、圖の如くすべし。

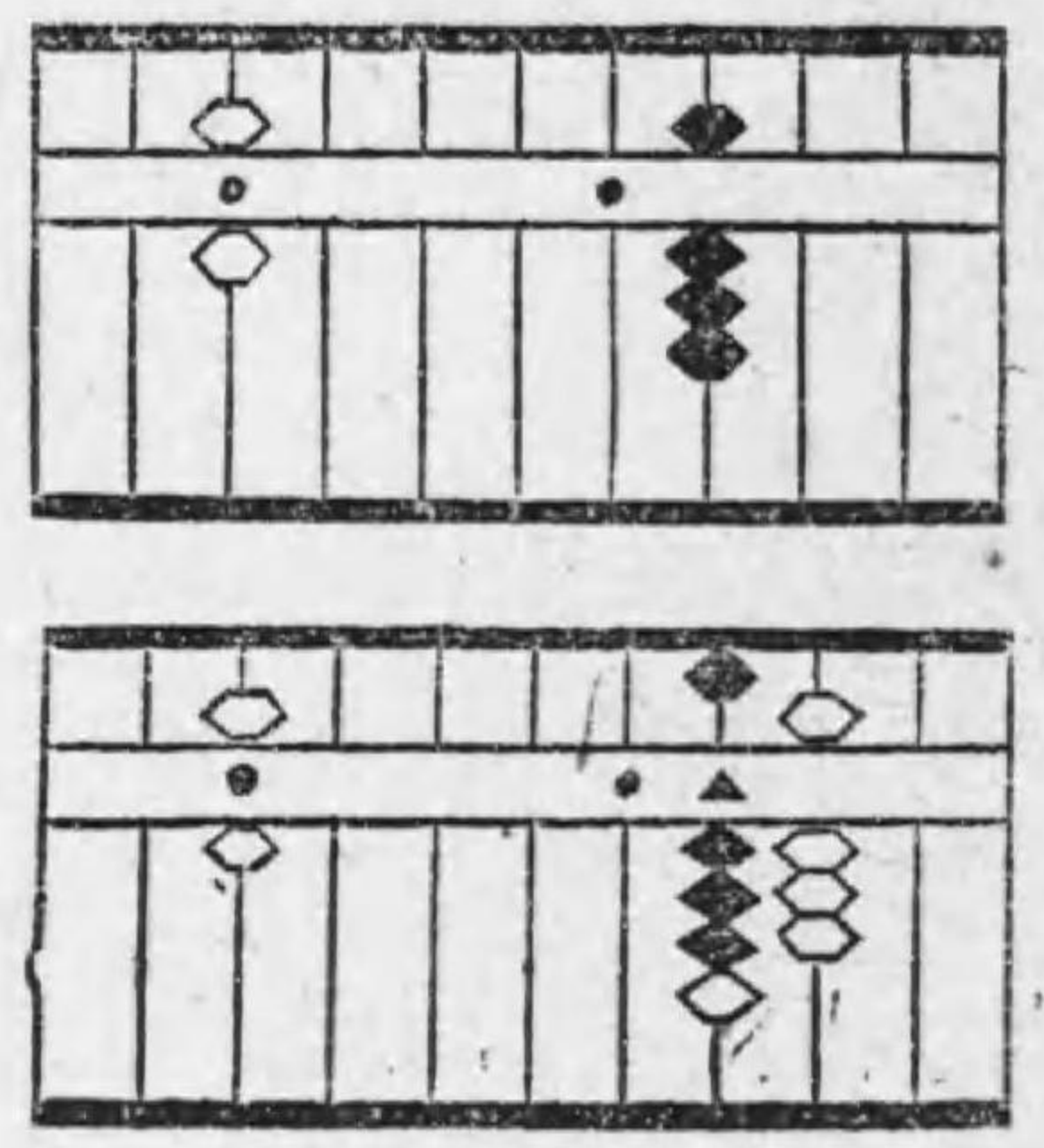
(イン八ガ八)と、九々を唱へて、その8をはらひ、その一桁右に8を置くこと、下圖の如くにする。
この時は、一の位は、もとの一の位の一つ右の桁(▲)しるしせるところ)にうつる故に、

答 八十

二のそ法乗

三、小数の場合

(2) 0.8 x 6 =



注意 かけ算の積の、一の位は、つねにもとの桁の一つ右にうつる。

(六八、四十八)と、九々を唱へ、分の位の五珠をはらつて、1を加へ4となし、その右に8を置く、而して、一の位は前の如く、一つ右(▲)のしるしをつけるところ)にうつる。

答 四箇と八分

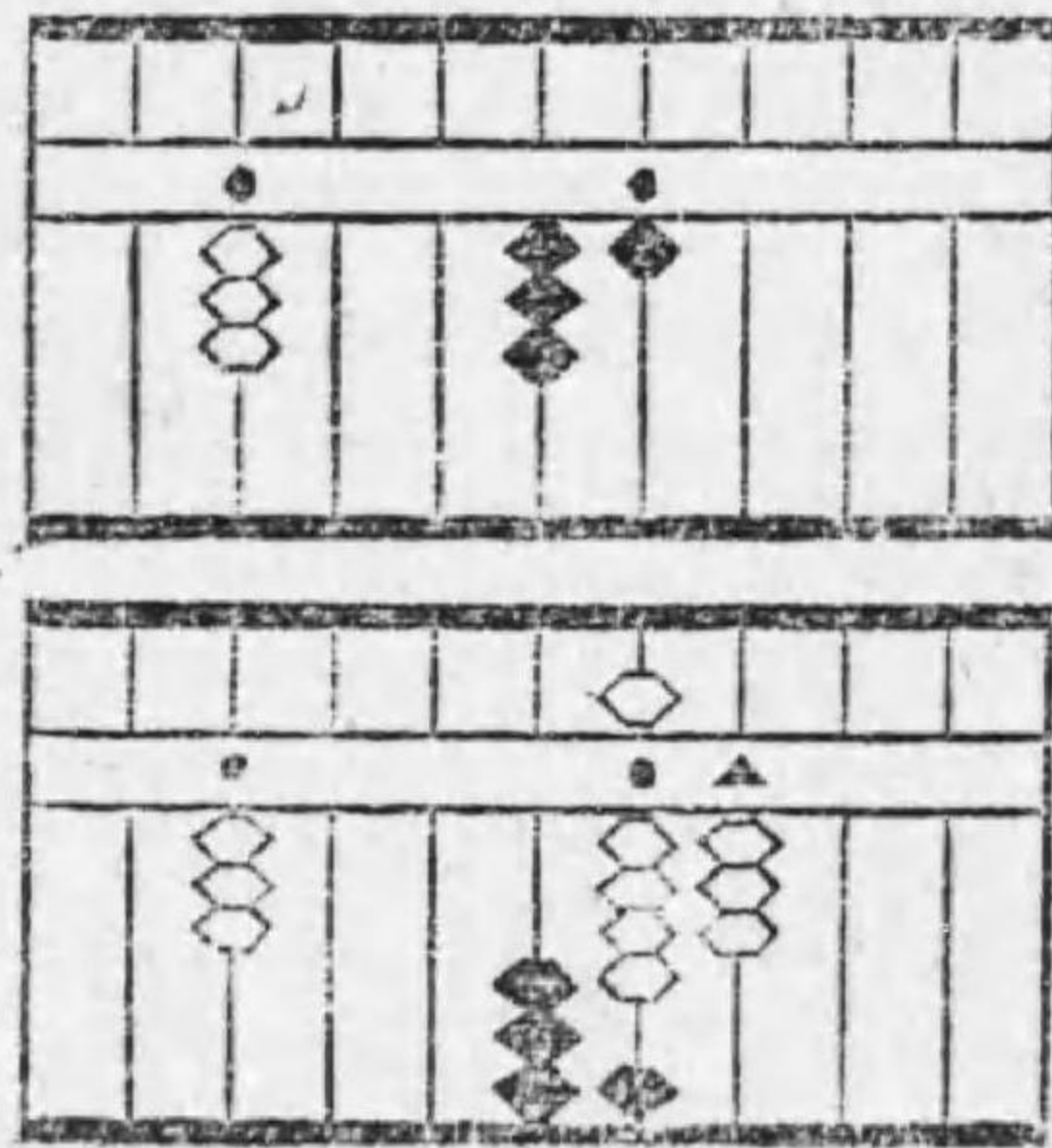
珠算科 (第五學年後期)

三のそ法乗

珠算科 (第五學年後期)

一の被乗數

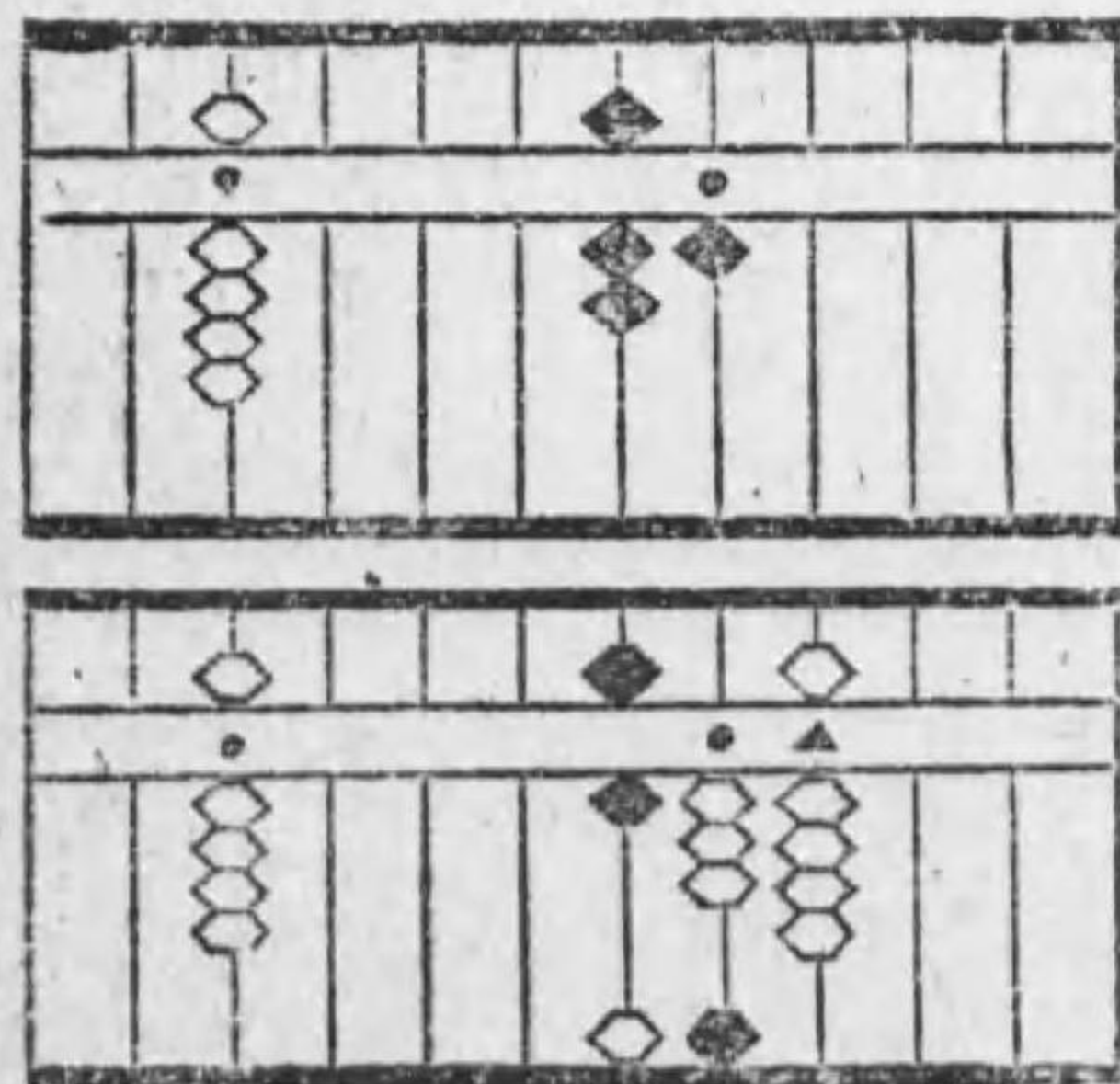
(1) $31 \times 3 =$



答 九十三

(2) 71×9

(1) 先づ1に9を掛け、1をはらひ、その右の桁に9を置く。
 (2) 7に9をかくるには、(七九、六十三)なる故、7のたまのあるところは、十の位となる(7の一をはらつて、6とし、その右の桁に3を置く)。
 答 六百三十九

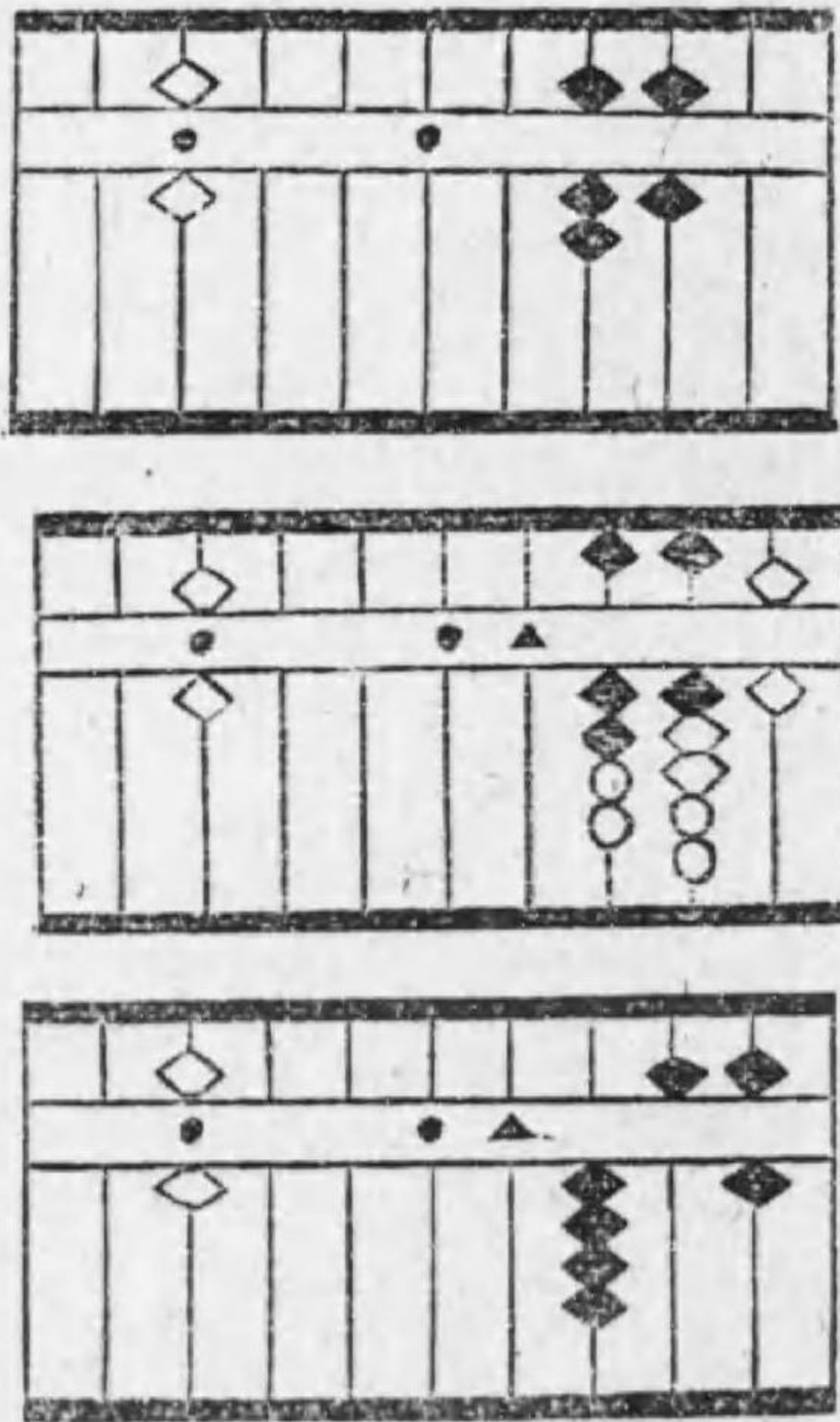


被乗數が二位以上なる場合には、右端の桁よりかけ始め、順次その左におよぶ。
 (1) $1 \times \infty \parallel \infty$ なる故、1をはらつて、その右の桁に3を置く。
 (2) $\infty \times \infty \parallel \infty$ なる故、3をはらつて、その右の桁に9を置く。
 (3) 積の一の位は、もとの桁の一つ右にうつる。

四のそ法乗

合なる場

(3) 0.076×6



(三) 右の桁を一の位と見なし、そこに2(中圖の○○)を置き、もとの7の珠を4(◆◆○○)にす。
 積の一の位は、もとの一の位の一つ右の桁に(▲)うつる。

答 四分五厘六毛

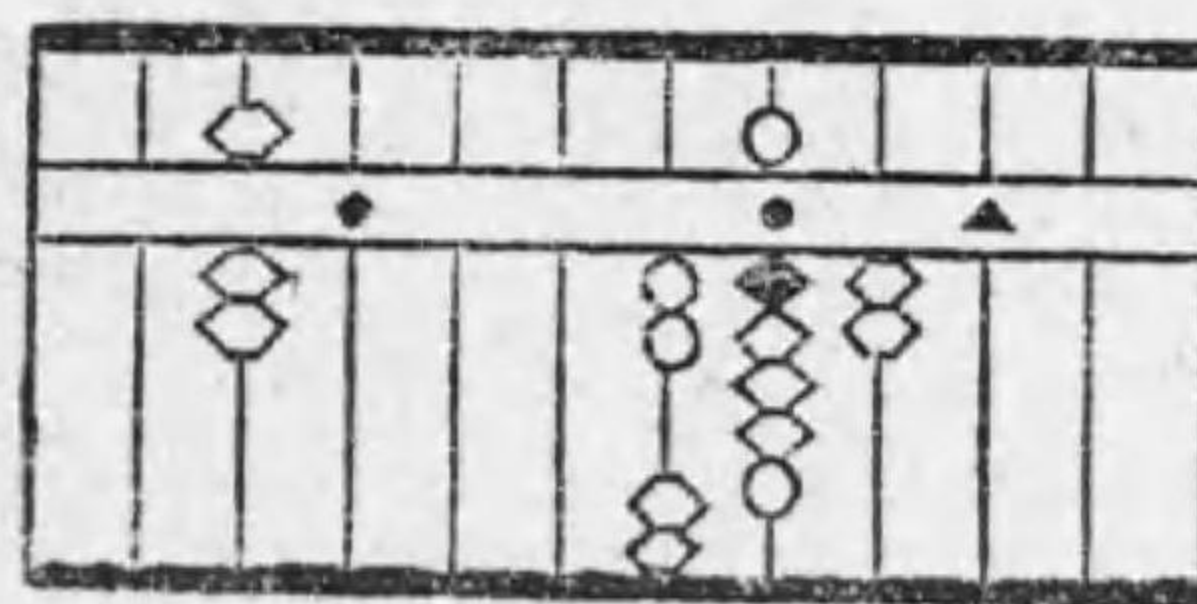
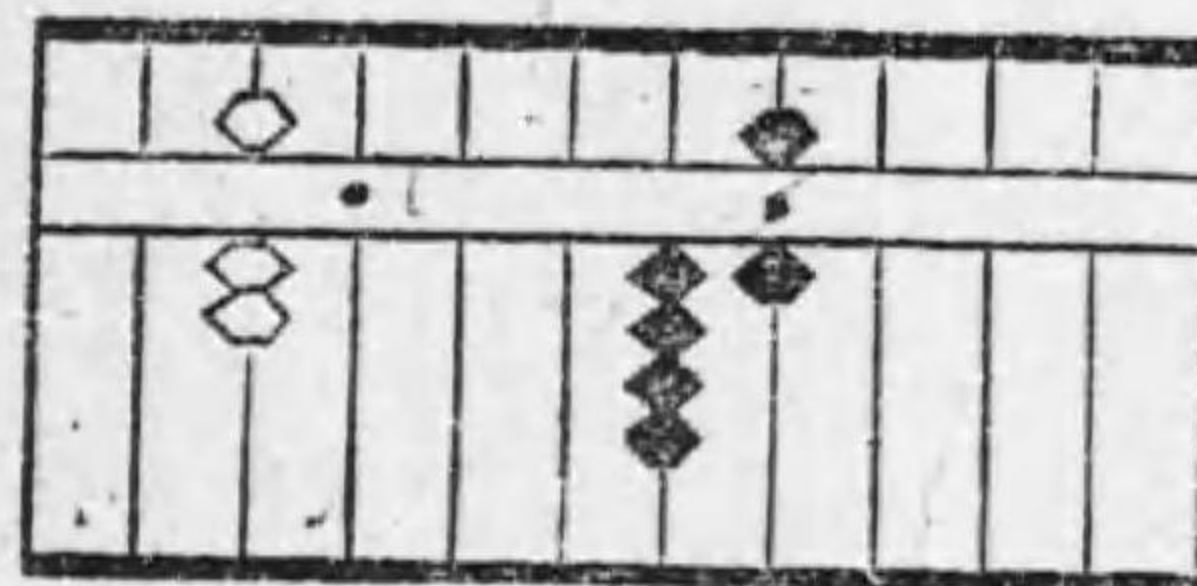
珠算科 (第五學年後期)

(一) 6に6をかけるには、(六六、三十六)なるを以て、6のたまの一つ右の桁を一の位と見なし、そこに6を置きもとのたまを3にす。
 (二) 7に6をかくるには、(六七、四十二)なるを以て、7のたまの一つ

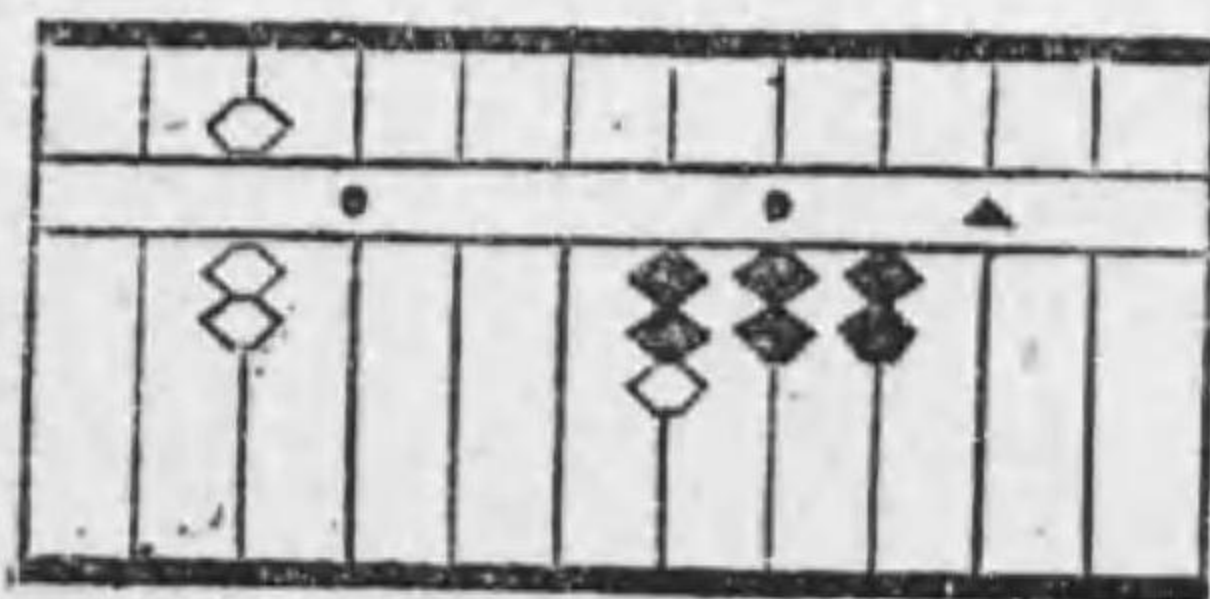
五のそ法乗

珠算科 (第五學年後期)

(1) 46 70 =



(0)



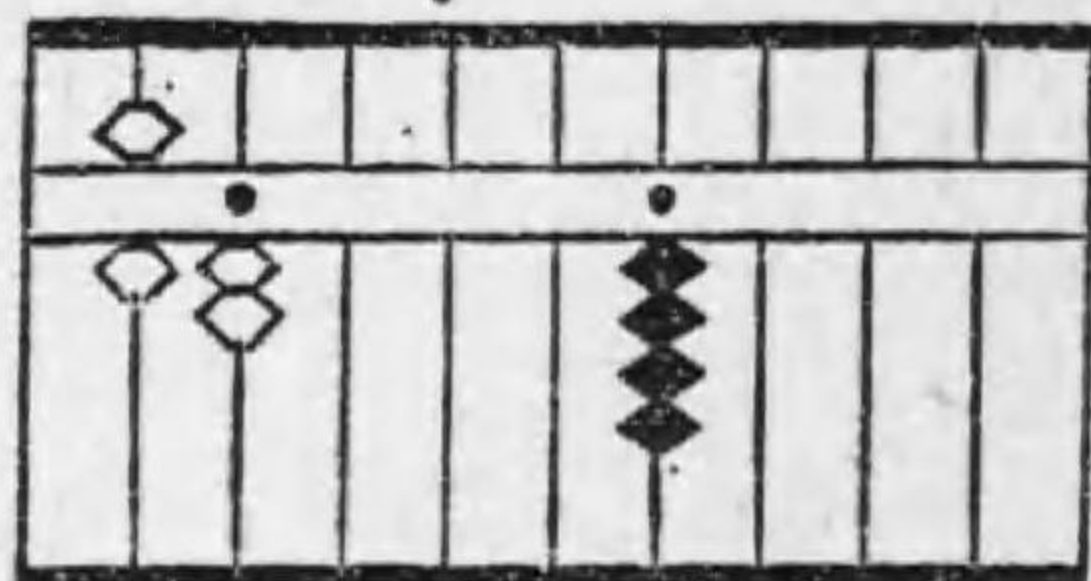
かけ方は、前と全おなじ、積の位どりは、もとの一の位より二桁右を一の位と定むべし。
答 三千二百二十

六のそ法乗

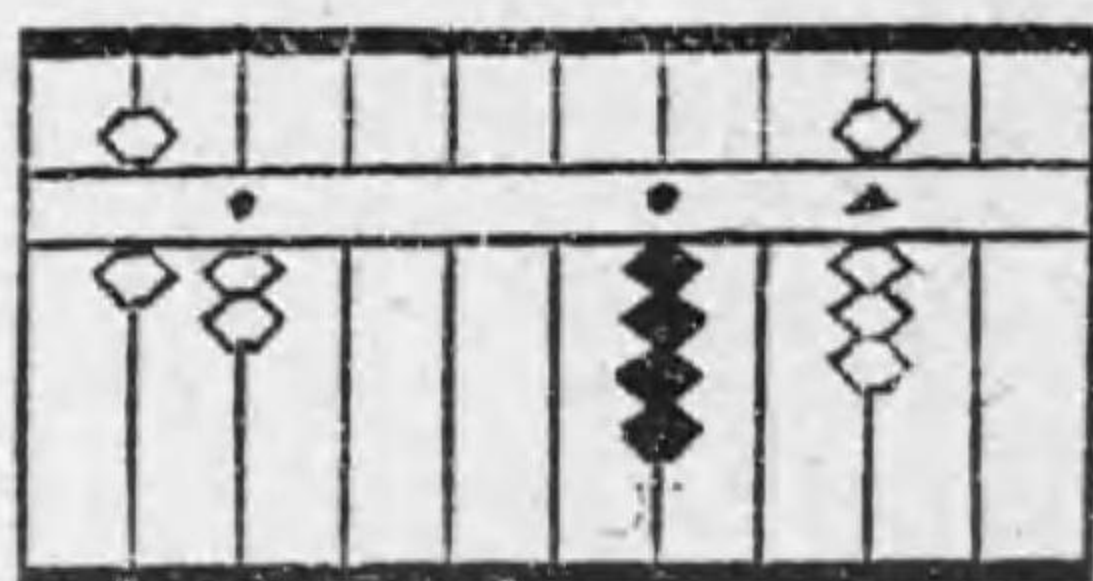
乗数の二位数の場合

珠算科 (第五學年後期)

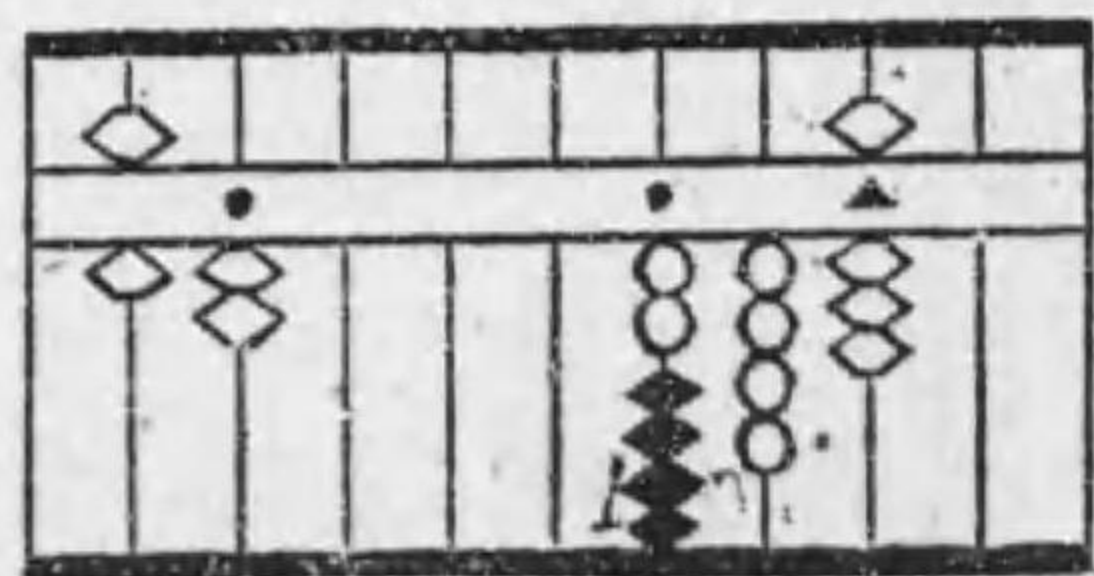
(2) 4 × 62



(4 × 2)



(4 × 60)



(三) 積の位どりは、もとの一の位の二桁右にとる。

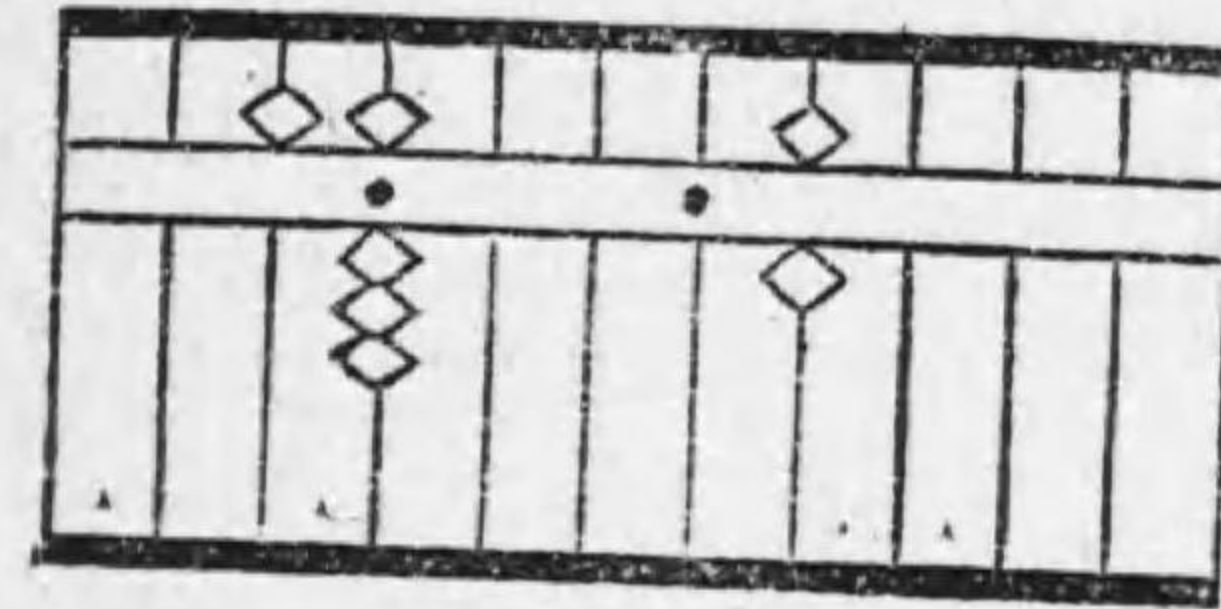
答 二百四十八

(一) 乗数の右のはじの数を乗じ、その積(4 × 2 = 8)を、もとの一の位の二桁右に置く(中の圖)
(二) 次に62の6を4にかけ被乗数の3をはらつてその積24を、前の積8の一桁左に置く。

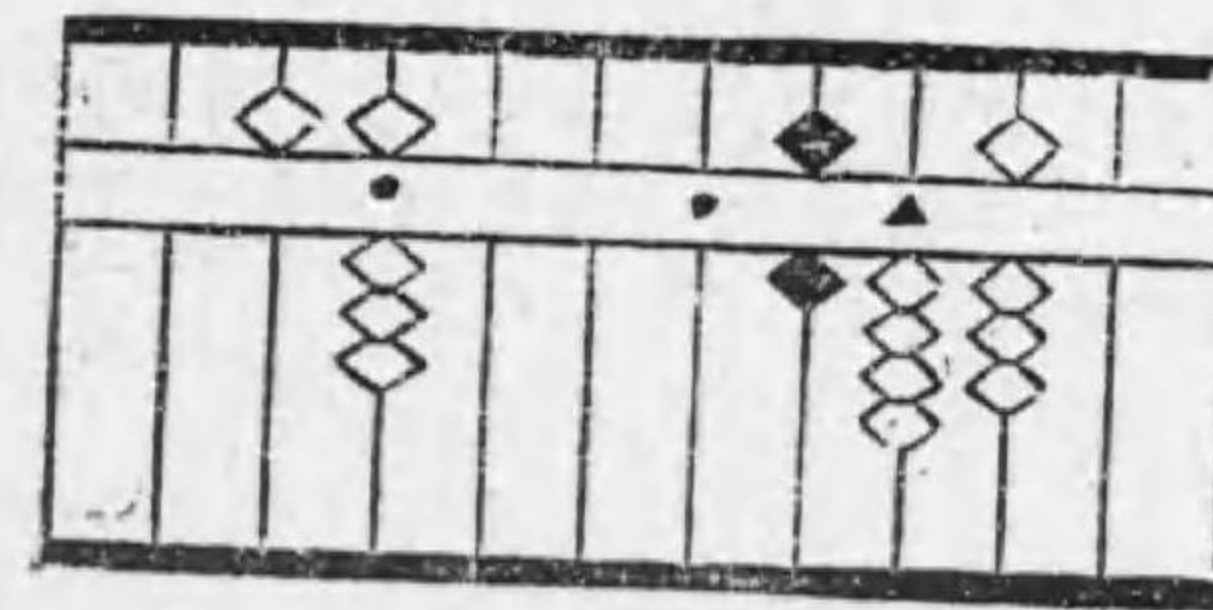
三のそ法乗

珠算科 (第五學年後期)

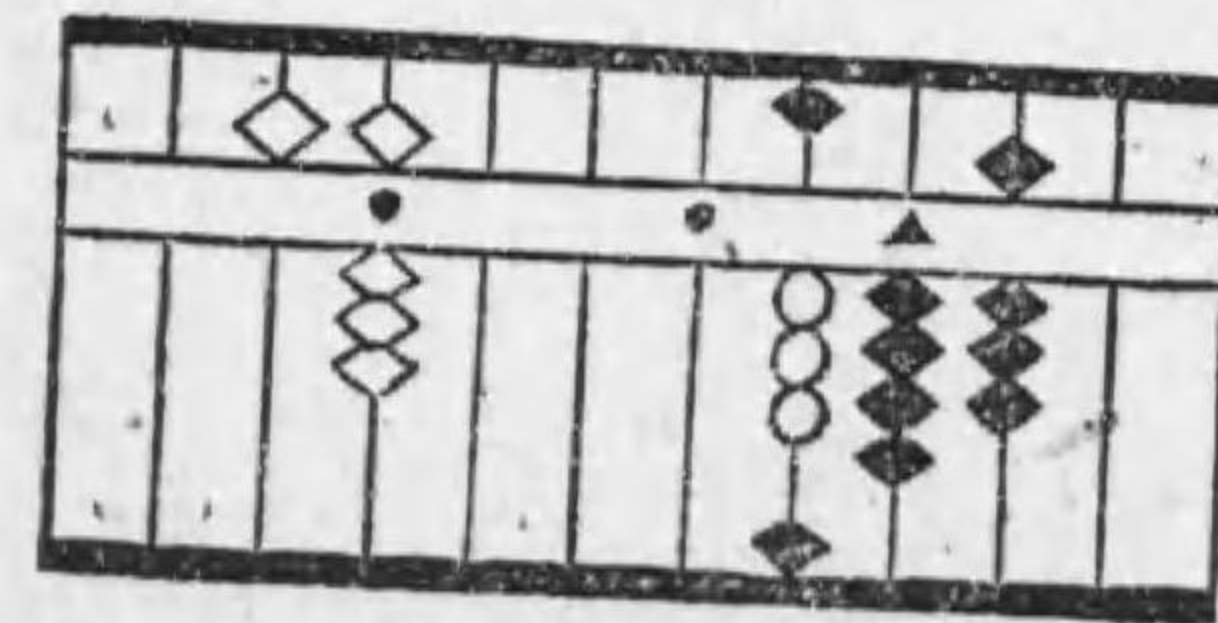
(3) $0.6 \times 58 =$



0.6×8



0.6×50



(3) かけ方は前と全くおなじ積の位どりもまた前とおなじ。

答 三十四箇と

八分

尋常小學 圖畫科表解

第五學年後期

二、圖畫の目的

二、圖畫の種類

圖畫は文字にうつすことを得ざるものをよく描きあらはすことを得。文字の通せざる人又言葉の通せざる人にも之によりて話すことを得。廣告やかんばんなど之を用ゐらるるは即ちこの埋なり。

美術工藝の基にして家をたつるにもまた器械をつくるにも圖畫をもととす綿密なる注意力と、観察力とたしかな知識としつかりした判断力とを養ふことを得、美感即ち美しいといふ心を養成し事物をきれいにするといふ心を養ひ卑屈ないやしい慾望を去りて高潔なる氣象に向はしむ。

隨意畫：自分の考へを自由に描くことをいふ。

臨畫：手本に倣うて描くこと。

寫生畫：實物を其儘寫すこと、例は器具の位置形状を見たるまゝ描くこと。

看取圖：略畫によりて物體の要點を速に描くこと。

記憶畫：おぼえて居て描くこと、例は曾て見た景色を思ひ起してかくこと。

考案畫：手本なしに自己にていろいろ工夫して描くことを云ふ。

三、描寫の要點

精神法：描かんとするものの性質状態などをあらはすこと、例へば軽きものは軽くやうに、堅きものは堅く見ゆるやうに線を使ひ分けること。

位置：物を描くには、まづ第一に位置に注意せざるべからず、即ち描かんとするものの畫と紙の上下左右の釣合により注意すべし。

形態：物をうつすにはその形に注意するを要す、例へば四角なものは正しく四角に梅の花は梅の花に櫻は櫻に正しく描くよう注意すべし。

遠近：近きものは大きく、遠きものは小さく見ゆることを忘るべからず。鐵道線路も、遠くなるに従つて遂に一點に合する如く見ゆ。

運筆：筆のはこび方は手際よくすべし、勢強き所は勢よく細き線は細くすべし。

直線：水平線、鉛垂線とも云ふ、たてにまつすぐな線。

斜線：ななめにまつすぐな線。

四、線の種類

曲線

單曲線……一度まがつた線。
 復曲線……二度以上曲つた線。
 弧線……圓の線の一部。

並行線

直線でも曲線でも一本以上の線がいくら引のばしても交はらぬ線を云ふ。鐵道のレールの如きものなり。

用紙

毛筆畫には畫用紙又はドーサ引きの日本紙をよしとす。

五、用具

筆

毛筆畫には初めは眞書筆を用ひ、進んで彩色濃淡をほどこすに至らば水筆を用ふべし。

消ゴム

鉛筆畫にあつてはやや硬もの即ちHB位のもの一本にて足れり。下書をするときには誤りを正すために消ゴムを用ふべし、ゴムは軟かなるをよしとす、硬きものは紙を損し易し。

下書は鉛筆をこくかく用ひて大體の線より描き次第に細かなる所に

六、練習

下書

及ぶべし又一つのものが他の物のかげにかゝるとも其全部を描きてよく位置を定め後にいらざる線は消すべし。

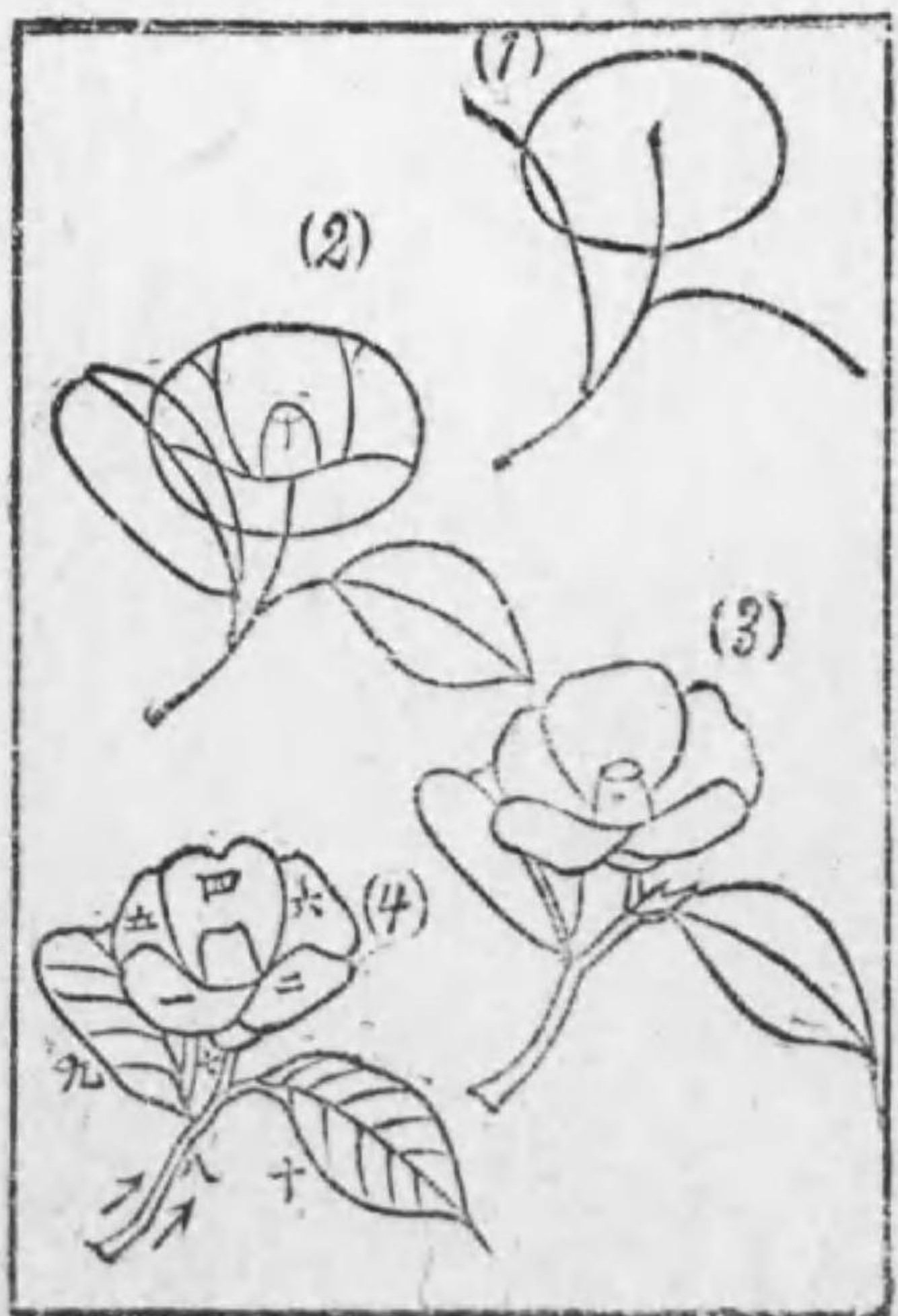
清書

十分に下書を吟味して後左上の方より書き始めて右下に終るを普通とす毛筆ならば墨のかはきたる後下書の鉛筆の線は消取るべし。

注意

凡て圖畫を描くときには決していそぐべからず、根氣よく其仕上げを待つべし。畫は美術なること、之を描くによりて心を静め得る事を忘れず、又用紙をけがし紙を損せぬ様注意すべし。

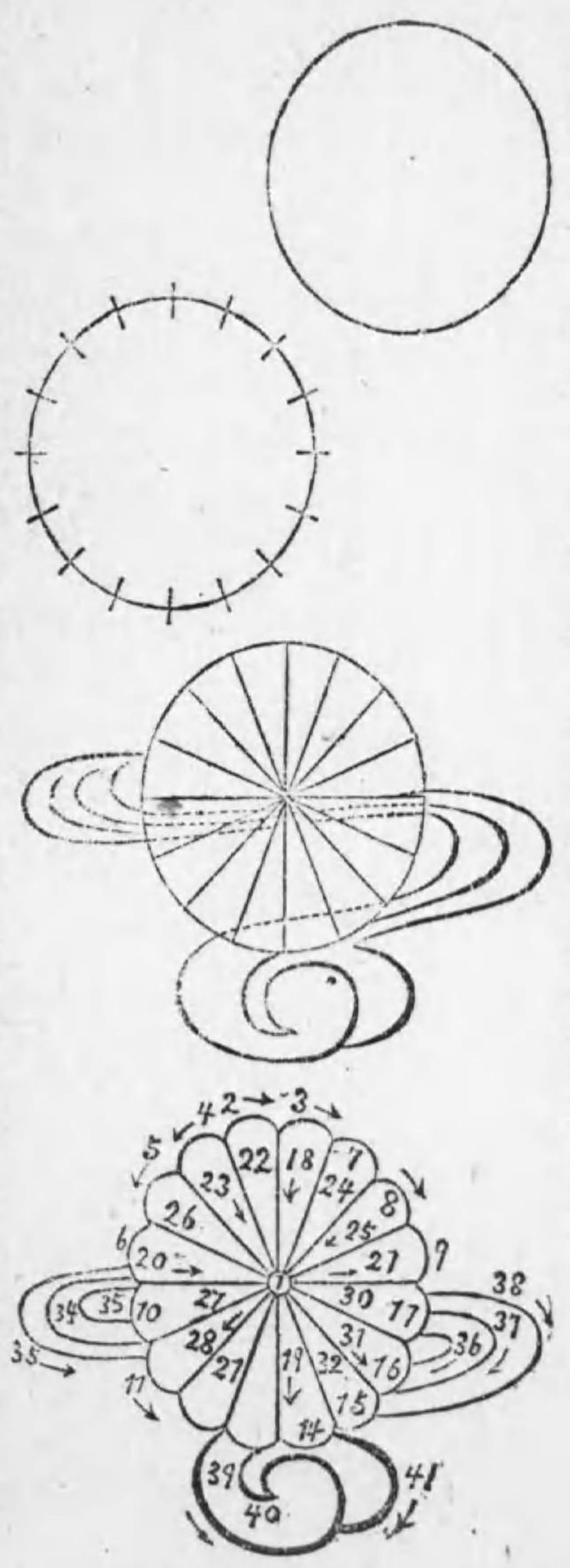
圖畫科 (第五學年後期)



尋常 小學 體操科 表解

第五學年 後期

圖畫科 (第五學年後期)
 紙に對する花の位置大き等をはかり先づ花の輪廓を楕圓形にて定め之に葉と枝との骨のみを、附くべし。然る後次第に細かなる點に及ぶべし。



此際草花類を描くに必要なる主線及び陰線と陽線とを分つを要す

菊花の位置と直徑とを定め兩脚規にて圓を描き之を十六等分すべし。淡墨は十分作り置きむらのなき様塗るべし。

體操科 (第五學年後期)

運動準備

直下

立翼

手を腰骨の上にとり胸をひらかしむ臂は少し後にひく。
直れ……すぐに臂を下げてもと
の如す。

第一圖 二
腕を後にして兩手を腰の



屈擧 踵 膝半

1. 踵を擧げ上げ……踵をそろへて上げ。
2. 半ば膝をまげ……曲げ(第二圖)
3. 膝をのばせ……踵を上げたまま膝をのばす。
4. 踵を下せ……下翼直立の姿勢となる。
5. 直れ……手を下して直立姿勢となる。

首及胸の運動

上翼開脚
手を頸、脚を左右に開け開け。

上體を
うしろ
にまげ

1. 胸を張り後にそれ……
2. 體をおこせ……上體をおこしてもとの如す。
3. 始め、一、二、1、2、の如くくりかへす。

土なほれ……手をおろして直立姿勢となる。

姿勢

第二圖

第三圖



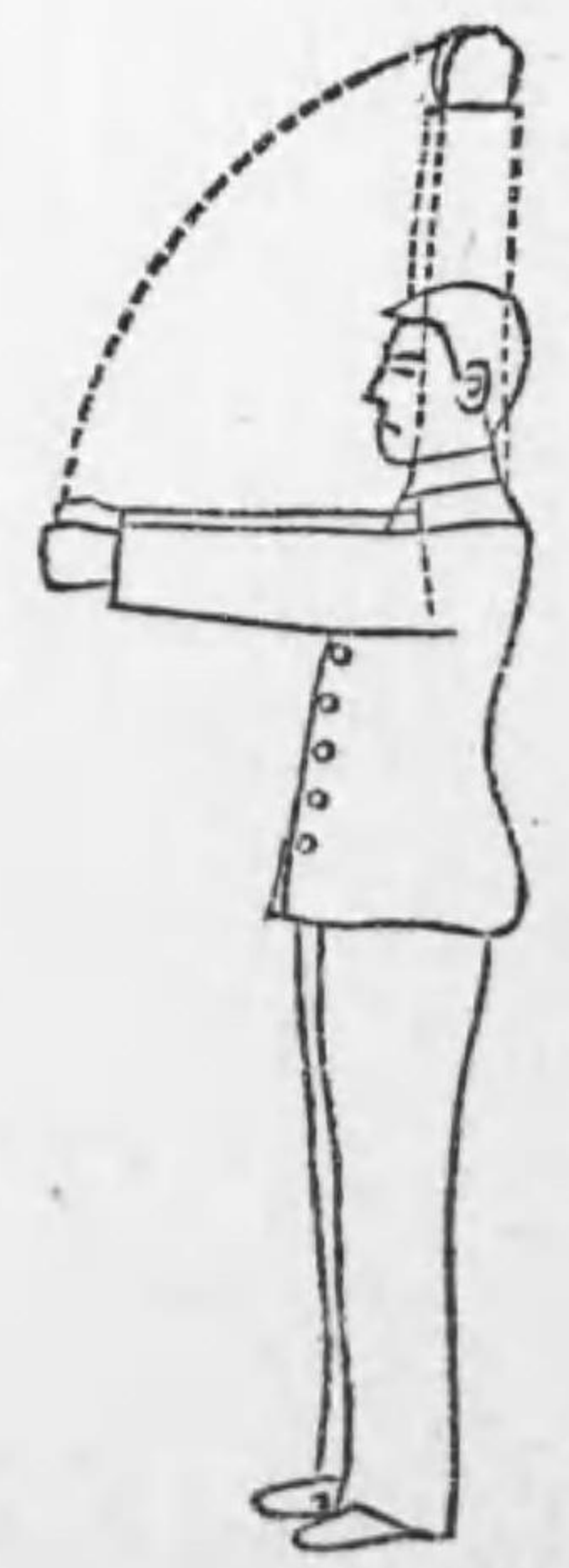
直立……

三、^{上肢}の運動

上肢の運動

1. 臂を前に上げ—上
2. 臂を下げ—下せ。
3. 始め……。
4. 直れ。

圖四第



四、^{全身}の運動

全身の運動

1. 臂を前にまげ—まげ。臂を肩の高さとし手の甲を上に向けて両手を前にまげる。
2. 臂を左右にのばし踵をあげ—あげ。臂を右左にのばすと同時に踵をあげる。
3. 臂をまげ踵を下せ—下せ。1、の姿勢にかゝる。
4. 始め—。
5. 止め—。
6. 直れ—。

五、^{肩及脊}の運動

肩及脊の運動

1. 上體を左右に開け—開け。二二にて脚を左右に開く。
2. 上體を前に屈げ—屈げ。
3. 始め—、二……。
4. 止め—脚を元へ。

第六圖



六、^{腹及腰}の運動

腹及腰の運動

1. 右(左)足を斜に前に出せ—出せ。
2. 臂を左右に舉げ—舉げ。
3. 上體を右(左)に廻せ—廻せ。2.前に廻せ—廻せ。
4. 始め……一、二、三、四……。
5. 止め—直れ。

七、^{全身}の運動

全身の運動

1. 踵を上げ—上げ。2. 左足を前に上げ—上げ。
3. 左足を元へ、4. 右足を後に上げ—上げ。
5. 連続跳べ—跳べ。6. 始め……一、二、止め—直れ。

體操科 (第五學年後期)

八、^カ下^レ肢^ノ運動

體操科 (第五學年後期)

翼^{ヨク} (臂^ヒを腰^{コシ}に上^アげ上^アげ)

1. 踵^{カド}を上^アげ上^アげ。
2. 半^ナは膝^{ヒザ}を屈^マげ屈^マげ。
3. 膝^{ヒザ}をの^ハせの^ハせ。
4. 始^{ハジ}め止^トめ直^ナれ。

九、呼^コ吸^ク運動

直立姿勢^{チヨククツシセイ}

側^{ソバ}臂^ヒの舉^{キョウ}

1. 臂^ヒを上^ウにあ^アげ。
2. 踵^{カド}をあ^アげ。
3. 臂^ヒを元^{モト}へ。
4. 始^{ハジ}め止^トめ。

(此時^{コトキ}に吐^{ハク})
(此時^{コトキ}に吸^スふ)

第七圖



大正二年八月廿五日印刷
大正二年八月廿八日發行

不許複製
著作權
所有

發行所

東京市日本橋區本銀町三丁目
大阪市南區安堂寺橋通三丁目

編纂者 福岡元治郎
發行者 中村寅吉
發行者 萩原勝次郎
印刷者 博文館印刷所

定價金十二錢

普通教育研究會
東京市日本橋區本銀町三丁目二番地
福岡元治郎
大阪市南區安堂寺橋通三丁目五十七番地
中村寅吉
東京市小石川區久堅町百〇八番地
萩原勝次郎
東京市小石川區久堅町百〇八番地
博文館印刷所
振替貯金口座東京四八二〇番
鍾美堂書店
振替貯金口座大阪四五七番

毎日の讀み物

勅詔語書の葉

小形美本全一冊
定價金三錢五厘
郵税金一錢

この本は勅語ホシと詔書テウゴの意味をもつとも平易テイイに、だれにもわかるやうに解トク釋シをしたものであつて、諸君シヨウキンはいふまでもなく我が日本ニッポンの國民コクミンとしては、かならず一冊イツサンを備へて毎日マイニチ讀まねばならぬ書籍ホシヤクであります。諸君シヨウキン、はやく御求オモトめになつて、よい日本人ニッポンジンとなるやうに御勉強ゴベンキヤウなさい。またこの本ホンの終ヲハりに五ヶ條ゴカウの御誓文ゴセイモンの講義カウギものせてあります。

東京 鍾美堂發行 大阪

普通教育研究會編纂

尋常小學日本歷史附圖

歴史をよくおぼえるに、大切のことは、時と場所と、その時の有様などを知ることでありませう。この書は右の趣意により歴史上必要の繪畫はことごとくあつめて美麗なる彩色をほどこし、又ものさしにて時をあらはしてある上に附録としておのゝの繪に分り易く親切に書いたお話がついてありますから一見して歴史上のことがらを會得する事が出来るよい本であります。

高等小學日本歷史附圖

一學年用全一冊
二學年用全一冊
定價各冊金四錢

五學年用全一冊
六學年用全一冊
定價各冊金四錢

東京 鍾美堂書店發行 大阪

終

